

爵

明治二十六年三月廿二日
決裁 明治 年 月 日

局長

岩倉

爵位局 主 事
對 務

明治二十六年三月廿二日
明治二十六年三月廿二日
明治二十六年三月廿二日

大臣

内事課長

内事課次長

印

次官 花房

醫術開業試驗委員從六位 醫學博士大西克知
以下二十名 敏任 仲

官 内 省

裏面白紙

143



醫術開業試験委員從六位醫學博士大西克知
以下二十名敘位ノ件

右謹テ奏ス

明治三十六年三月十日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

内

閣

144

明治廿六年三月十日

内閣書記官



内閣總理大臣

木

内閣書記官長



医術開業試験委員從六位醫學博士大西克知以下
二拾名叙位進階内則第六條、依り叙位、件

内閣

從六位醫學博士 大西 克知

叙正六位

正七位

新宮 涼亭

左

齋藤 仙也

左

西村 輔三

叙從六位

從七位 勲六等

長谷川 順次郎

左

新井 春次郎

勲六等

森 篤次郎

治世六年三月十日

内閣書記官



閣總理大臣

大

内閣書記官長



開業試験委員從六位醫學博士大西克知以下
名叙位進階内則第六條、依り叙位、件

内閣

從六位醫學博士 大西 克知

正六位

正七位

新宮 涼亭

左

齋藤 仙也

左

西村 輔三

從六位

從七位 勲六等

長谷川 順次郎

左

新井 春次郎

勲六等

森 篤次郎

医術開業試験委員叙位ハ
本月中、發表ス



叙正七位

浦島堅吉
魚住完治
益田廣成
緒方正清
渡邊晋三
伊澤信平
緒方收二郎
伊庭秀榮
佐々倉永三郎
寺田織尾
土岐文二郎
秋元隆次郎
橋田茂重

正六位

大正二年二月一日
敘從六位

醫術開業試験委員從六位醫學博士

大西克知

從六位

大正二年十月十日
敘正七位

醫術開業試験委員正七位

新宮涼亭

從六位

大正二年十月十日
敘正七位

醫術開業試験委員正七位

齋藤仙也

從六位

大正二年十月十日
敘正七位

醫術開業試験委員正七位

西村輔三

正七位

大正二年三月九日
敘從七位

醫術開業試験委員從七位勲六等
長谷川順次郎

内務省

正七位

大正二年十月十日
敘從七位

醫術開業試験委員從七位

新井春次郎

右多年奉職勤勞不尠者ニ付叙位進階内則第六條
ニ依リ各頭書ノ通位一級進メテ度謹テ奏ス
明治廿六年一月十六日

内務大臣男爵内海忠勝

正七位 醫術開業試験委員 勲六等 森 篤次郎

正七位 醫術開業試験委員 浦島 堅吉

正七位 醫術開業試験委員 魚住 完治

正七位 醫術開業試験委員 益田 廣成

正七位 醫術開業試験委員 緒方 正清

正七位 醫術開業試験委員 渡邊 晋三

正七位 醫術開業試験委員 伊澤 信平

正七位 醫術開業試験委員 緒方 収二郎

正七位 醫術開業試験委員 伊庭 秀榮

正七位 醫術開業試験委員 佐々倉 永三郎

内務省

正七位 醫術開業試験委員 寺田 織尾

正七位 醫術開業試験委員 土岐 文二郎

正七位 醫術開業試験委員 秋元 隆次郎

正七位 醫術開業試験委員 橋田 茂重

右多年奉職勤勞不貳者ニ付叙位進階内則第六
條ニ依リ各頭書ノ通叙位セシメ度謹テ奏ス

明治卅六年一月十六日

内務大臣男爵内海忠勝

位勲爵		從六位 醫學博士		氏名	大西克知
博士				舊氏名	
府縣族籍	愛媛縣喜多郡	舊藩			
生年月日	慶應元年正月六日	産地			
原籍	愛媛縣松山市千舟町	増田惟祝三子			
現住所	東京市神田区錦町三丁目	老母住			
年号	月日	任 免 賞 罰 事 故	官 衙		
明治四年十一月二十日		東京大学医学部预科生次ニテ東京大学預備門下學生トナル			
十七年一月十一日		本年一月一日ヨリ一々年間褒賞給賞金ヲ附與多事但し一月	東京大学預備門下		
十八年一月十一日		本年一月一日ヨリ一々年間褒賞給賞金ヲ附與多事但し一月			
十九年二月二十日		獨逸國「ハル」大学ニ入り理科及医科ヲ學ブ			
廿一年四月十五日		獨逸國「フービンゲン」大学ニ移リテ特ニ眼科ヲ攻究ス眼科院	内務省		
廿二年十月十六日		特許研究生トナリ兼テ内科產婦人科眼科諸院實習生トシ「白色條ヲ呈スル網膜炎」ヲ著シテ「ドクトル」論文トシ医学全科試			
廿三年六月廿六日		同ニ優等成績ヲ得テ「ドクトル」資格ヲ得テ「再々帰朝」ノ途ニ上ルニテ「フービンゲン」大学眼科特待研究士トナリ			
廿三年六月廿六日		帰朝ス			
廿三年十二月		任オ三高等中学校教授			
廿三年十二月		叙奏任次四等			
廿三年十二月		上級俸下賜			
廿三年十二月		オ三高等中学校医学部勤務ヲ命ス			
廿四年十二月八日		病院眼科医長ヲ嘱託ス			
廿四年十二月八日		オ三高等中学校医学部附屬舎建築費トシテ金四拾五圓			
廿四年十二月八日		寄附金殿持トシテ其賞金五拾圓下賜トナリ			
廿四年十二月八日		叙正七位			

廿五年	七月五日	産學園業試験委員ヲ命ス	内務省
廿六年	三月三十一	職務勉勵ニ付金六拾五円賞與	内務省
	十月十三	明治廿五年七月金山果下洪水ノ節罹災者救助トシテ金拾圓施與	
		及段奇特ニ付為其賞木孟尼伯下賜美事	賞勳局
廿七年	三月廿六日	職務勉勵ニ付金六拾五円賞與	金山果
	五月廿四日	出京ヲ命ス	文部省
	十二月十二日	陞叙高等官五等	内閣後援大臣
	冬	四級俸下賜	文部省
廿八年	二月一日	叙任六位	官内大臣
	三月廿二日	職務勉勵ニ付金七拾円賞與	金山果
	四月十二日	三級俸下賜	文部省
	六月廿五日	非職ヲ命ス	金山果
	六月廿八日	依願岡山果病院眼科医長囑託ヲ解ク	
	九月二十四	明治廿六年十月洪水ノ節岡山市被害窮民ニ金五円賑恤美段	
履用			内務省
廿八年	十二月十八日	音特ニ後事	賞勳局
廿九年	九月廿四日	依願免官	内務省
	十二月廿三	明治廿九年東京正岡業試験委員勤務ヲ為手者金八拾	内務省
		田給與	
三十年	十二月廿日	業試験委員勤務ヲ為手者金百拾五円給与	内務省
三十一年	十二月廿日	今上ニ付乃々金百拾五円給与	内務省
三十二年	十二月十三日	右論文ヲ提出シテ学位ヲ請本ノ東京帝國大学医科大学教授令	
		大ニ其大学院ニ入り定期ノ試験ヲ經タルモト同等以上ノ学位アリ	
		ト認メタリ仍ラ明治三十一年勅令第三百四十四号学位令第二條	
		ニヨリ茲ニ医学士ノ学位ヲ授ク	文部大臣
三十三年	九月廿三日	医術開業試験委員満期	内務省
三十三年	九月廿四日	医術開業試験委員被仰付	内務省

世三年十二月廿四日 医術天業試驗 秀良 勤務三付 居手者金三百三拾七兩 給与
世四年十二月廿五日 合上三付 金一百叁拾七兩 給与

內務省
令

餐盤用紙

内務省

十六年一月十六日	客年中拾捌勉勵三月俸四分一賞典差事	京都府
十六年十二月廿八日	傳添兩縣防事勸勵力不火差事為慰勞金四圓下賜 差事	德島縣
	德島縣在職中序列利病及赤痢病豫防模範委負 中付 十九年七月廿日	令
	本縣在職中拾捌勉勵功不少差事為慰勞白綿緬志 足附與差事	令
廿五年四月廿二日	匠術開業試驗委員任期滿了	令
令	令月廿三日 匠術開業試驗委員破仰付	内閣
履歷用紙		内務省

位勲爵
博士

正七位

氏名

齋藤仙也

府縣族貫 京都府平民

生年月日 安政元年三月十日 産地 丹波國

原籍 京都府丹波國竹野郡吉野町字吉田百三番戸
現住所 京都市上京区小川通瀬池下八壹屋町四番戸

年号 日 任 免 賞 罰 事 故

明治十五年六月十日 帝國大學医科大学卒業証書受領

五月十五日 任京都府立医学校一等教授

七月十日 医学士称号受領

十二月七日 医術実業試験委員ヲ任ス

十七年四月十二日 今上 廿年九月五日迄五年内前職

五月一日 医術実業試験委員下付セラル

九月一日 京都府立療病院内科医長ヲ任ス

廿二年五月 勅令第六十二号ヲ以テ医術実業試験委員任職期限被定

履 歴 用 紙

内 務 省

廿二年九月廿七日 医術実業試験委員被仰付

十月十一日 依願京都府立医学校教授兼府立療病院内科医

長ヲ免ス

京都府

廿七年四月廿三日 勅令第四十四号ヲ以テ医術実業試験委員任期被定（任期四年）

廿八年十二月十日 叙正七位

内 務 省

廿九年四月六日 勅令第六十八号ヲ以テ医術実業試験委員任期被定

三十年十二月廿日 医術実業試験委員被仰付

内 務 省

三十一年四月廿二日 医術実業試験委員任期満了

四月廿三日 医術実業試験委員被仰付

内 務 省

十二月廿日 医術実業試験委員被仰付

内 務 省

卅二年十二月廿八日 今上 金七拾五円給与

卅五年五月 第一回医術実業試験委員任職満了

内 務 省

卅五年四月廿二日 医術実業試験委員任期満了

今上 金七拾五円給与

内 務 省

位勲爵
博士

正七位

氏名

西村輔三

府縣族籍 兵庫縣平民

舊姓名

生年 明治元年三月十日

産地 兵庫縣但馬國城崎郡新田村、内今森村

原籍 産地々上

現住所 大阪府東區今橋通り五丁目七拾叁番屋敷

年号 月 日

任 免 賞 罰 事 故

官 衙

明治七年 月

横濱寄留地四番館米國人「エッケンブルージュ」ト共ニ米

國ニ渡航シ同國「サンジョセイ」ニ於テ齒科専門外科

博士セリヒールニ就キ齒科専門医学及實地ニ成業ス

疾病ノ為メ帰朝ス

十年 十月

同業免狀ヲ受リ

内務省

十二年 十二月

横濱在留齒科専門外科博士「アツチマシ」ボウケンスト

共ニ東京京橋區南金六町八番地ニ開業ス

十三年 五月

大阪ニ齒科医術開業シ今日ニ在リ

履歴用紙

内務省

十七年

齒科医術開業試験委員ヲ命ゼラル

内務省

十八年

四月ヨリ
八月至ル

支那内地ヲ漫遊ス

十九年

齒科医術開業試験委員ヲ命ゼラル

廿年

同上委員ヲ命ゼラル

廿二年 九月廿七日

医術開業試験委員被仰付

内務省

各省並ニ府縣ヲ木立ヲ賜ハルヲ五回

各省並ニ府縣ヲ賞狀ヲ賜ハルヲ拾回

廿三年

大阪私立衛生會ノ常務委員ニ任ゼラル其後理事

ニ任ゼラル

大阪市会議員ニ任ゼラル降同議員ニ任ゼラル明治廿八

年迄再任セラル

廿七年 四月廿三日

勅令四十四号ヲ以テ医術開業試験任期被定（一期四年）

廿八年 八月

大阪築港期成會委員ニ推定セラル

十二月

特旨ヲ以テ正七位ニ叙セラル

宮内省

廿九年四月	大政地方衛生委員仰付うん	
廿一年四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	
及 四月廿三日	医術開業試験委員被仰付	内 閣
廿二年	ペスト豫防委員嘱託せうん	大 政 府
廿三年十二月廿四日	医術開業試験委員勤務三ヶ年満了に全計百参円給與せうん	内 務 省
廿四年十二月廿五日	同上全百七拾参円給與	人
廿五年四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	
及 六月廿三日	医術開業試験委員被仰付	内 閣
履歴川紙		
内務省		

位勲爵
博士
從七位 勲六等
氏名 長谷川順次郎

府縣族
東京府士族
生年
嘉永五年九月九日
舊氏名
新潟縣古志郡福井

原籍
東京市本郷區湯島四丁目八番地

現住所
東京市本郷區元町二丁目四拾八番地

年号
任
免
賞
罰
事
故
官
衙

明治年
十月
大學東校醫學科卒業

十年
一月
十一日
任
陸軍軍醫副
大政官

本病院第一課出仕被仰付後事

叙從七位
大政官

第一軍營徵兵検査医官被仰付後事

一等給下賜後事
陸軍省

依願免本官
大政官

陸軍軍醫副奉職中鹿児島逆徒征討之際盡力不

履歷用紙
内務省

後有勲六等叙單光旭章下賜後事
賞勲局

鳴任栃木縣醫學校教師月俸金八拾圓支給

鳴任栃木縣醫學校兼病院院長月俸金而拾圓支給

栃木縣衛生會委員申付後事

第二期及第三期醫師開業試驗委員申付後事

兼任栃木縣驅徴院長

職務格別勉勵後付為其賞金拾圓下與後事

依願解任

任茨城縣醫學校兼病院院長年俸千五百圓下賜

地方衛生會委員申付後事

醫術試驗委員申付後事

管内各驅徴院長兼務申付後事

職務勉勵三付金拾拾圓下賜後事

自今年俸千六百圓給与後事

茨城縣

廿九年三月廿六日	事務格別勉勵ニ付手當トシテ金拾五円給與	令
令	七月及十月 十三日 第三期及第四期藥舖試験委員申付後事	令
令	三十一年一月十七日 依願免本官並兼官	令
令	一月廿一日 在職中事務格別勉勵ニ付金百五十円下賜	令
廿一年四月四日	公立南秋田河邊郡病院長ヲ命ス	秋田縣南秋田 河邊郡役所
令	月俸金百七拾四支給後事	令
令	九月廿七日 依願免職務	令
廿二年三月八日	明治廿二年第一回東京匠術開業試験委員申付	内務省
令	五月廿日 前同文勤務ニ付金百四拾四給與	令
令	五月 勅令六十二号ヲ以テ匠術開業試験委員職務權限被定	令
令	九月廿七日 匠術開業試験委員ヲ命ス	内務省
令	十月十二日 第二回東京匠術開業試験委員勤務ニ付金八拾四給與	内務省
廿三年十月十九日	廿三年東京匠術開業試験委員勤務ニ付金百九拾四給與	令
廿四年十月廿二日	廿四年前同文勤務ニ付金貳百五拾四給與	令
履 歴		
廿五年十月廿六日	廿五年前同文勤務ニ付金百六拾五円給與	令
廿六年十月廿五日	廿六年前同文勤務ニ付金百四拾四給與	令
廿七年四月廿三日	勅令四十四号ヲ以テ匠術開業試験委員任期被定（一期四年）	令
廿八年十二月廿四日	明治廿七年東京匠術開業試験委員勤務ニ付金百五拾四給與	内務省
廿八年十二月廿八日	廿八年前同文勤務ニ付金百四拾四給與	令
廿九年十二月廿三日	廿九年前同文勤務ニ付金九拾四給與	令
三十年十月廿日	三十年前同文勤務ニ付金百拾四給與	令
廿一年四月廿二日	匠術開業試験委員任期満了	令
令	四月廿三日 匠術開業試験委員被仰付	内務省
令	十月廿四日 匠術開業試験委員勤務ニ付金百五拾四給與	内務省
廿二年十月廿一日	前同文勤務ニ付金百拾四給與	令
廿三年十二月廿四日	令上ニ付金參百七拾四給與	令
廿四年十二月廿五日	令上ニ付金貳百貳拾九円給與	令
廿五年四月廿二日	匠術開業試験委員任期満了	令

令 四月廿三日 医術開業試験委員被仰付

内 閣

履 歴 用 紙

内 務 省

158

位勲爵
博士
新井春次郎

府縣職
埼玉縣平民

生年月日
安政三年八月廿五日
原籍
埼玉縣

原籍
武藏國比企郡龜井村大字高野倉八番地

現住
東京市神田區駿河台袋町七番地

年号
明治十六年一月廿七日
任
免賞罰事故
官衙

明治十六年一月廿七日
東京大学医学部
於医学全科卒業

一月廿一日
任
茨城縣茨城医学校
一等助教諭

四月廿一日
任
医術試験委員
申付差事

十月七日
任
病院医員兼
事務申付差事

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

十月三十日
任
依願免本官

令	解剖学教室勤務申付	医科大学
九月十九日	医術開業試験委員ヲ令ス	内閣
廿九年一月廿九日	職分勉勵ニ付其賞トシテ金貳拾圓給與	帝大
十二月廿六日	令上	令
三十年十二月廿三日	令上ニ付金四拾八圓給與	令
廿一年九月十九日	医術開業試験満期	令
九月三十日	医術開業試験委員被仰付	内閣
十月九日	職分勉勵ニ付其賞トシテ金廿拾八圓給與	帝大
廿二年四月八日	依願免本官	内閣
四月廿五日	東京帝國大学医科大学附属医院高等看護講習科ノ授業ヲ嘱託ス	内閣
廿三年三月三十一日	令上嘱託ヲ解	内閣
五月十八日	師範学校中学校高等女学校教員夏期講習會體操科講師ヲ嘱託ス	文部省
展用紙		内務省
九月十五日	本校美術解剖授業ヲ一週二時嘱託ニ報酬トシテ一ヶ月金貳百圓賜付	東京美術学校
十二月廿四日	医術開業試験委員勤務ニ付為金五圓拾七圓給與	内務省
廿四年九月三日	依願解嘱	東京美術学校
十二月廿五日	医術開業試験委員勤務ニ付為金五圓拾七圓給與	内務省
九月十日	医術開業試験委員被仰付	内務省

位勲
博士

勲 六等

氏名

木林 篤次郎

府縣

東京府平民

舊名

舊氏名

生年

慶應三年九月五日

産地

島根縣下石見國鹿足郡津和野

原籍

東京市京橋區南新町廿三番地

現住所

同上

年号

月日

任 免 賞 罰 事 故

官 衛

明治四年一月十七日

医科大学医学科試験に合格し、卒業証書に授與

帝國大学

五月九日 医科大学助手に嘱託

医科大学

九月二日 医術開業免状に授與、医籍に登録

内務省

十一月廿四日 医科大学助手に嘱託に解

医科大学

廿六年一月十二日

医科大学助手に任

帝國大学

九月十四日 同上に任

同上

廿七年十二月十八日

依願免本官

同上

十一月十九日 本院附医官に勤務に嘱託

東京陸軍病院

履 歴 用 紙

内 務 省

廿八年十二月十八日

明治二十七八年從軍記章に授與

賞 勲 局

廿九年三月一日

本院附医官勤務に嘱託に解

東京陸軍病院

六月三十日

明治廿八年戰役、功に依り勲六等、叙瑞寶章及金百圓に授與

賞 勲 局

九月廿四日

医術開業試験委員に任

内 務 省

三十年十二月廿四日

医術開業試験委員勤務に任、金九拾圓給與

内 務 省

三十一年十二月廿四日

同上に任、金八拾圓給與

同上

廿二年十二月廿四日

同上に任、金百九拾八圓給與

同上

廿三年三月五日

東京帝國大学農科大学寄宿舍医員に嘱託

東京帝國大学

九月一日

埼玉縣立三中学校医に嘱託

埼玉縣

廿四年九月廿四日

医術開業試験委員に任、満了

同上

九月廿四日

医術開業試験委員に任

内 務 省

十二月廿六日

農業教員養成所寄宿舍医員に嘱託

農業教員養成所

十二月廿四日

医術開業試験委員勤務に任、金百八拾八圓給與

内 務 省

廿四年十二月廿五日

同上に任、金百八拾五圓給與

同上

位勲爵		氏名	
博士		浦島堅吉	
府縣		長崎縣士族	
生年		安政二年三月廿一日	
原籍		長崎縣北高木郡諫早町分二番戸	
現住所		東京市京橋区永代町六番地	
年号		明治六年七月十日	
官		東京大學醫學科修了ノ證ヲ受ク	
令		八月十七日	
令		東京大學醫學部第一醫院當直医ニ補申付ラレ	
令		十月廿七日	
令		醫學士タルノ證ヲ受ク	
令		十二月十九日	
令		東京大學御用掛申付取扱准判任候事	
令		但し月給三十円迄	
令		十月十九日	
令		醫學部産科婦人科病室當直医申付ラレ	
令		十七年五月一日	
令		医術開業免狀下附	
令		三月十七日	
令		自今月給金四拾円給與	
令		十九年三月十二日	
令		東京医科大学助手ヲ命セラレ第一醫院勤務申付ラレ	
令		廿二年九月廿七日	
令		医術開業試験委員ヲ命セラレ	
令		十二月十二日	
令		明治廿二年第二回東京医術開業試験委員勤務ニ付月	
令		録ノ通給與	
令		明治廿三年第一回東京医術開業試験委員勤務ニ付手當金廿七拾	
令		五月給與	
令		明治廿四年第二回東京医術開業試験委員勤務ニ付手當金貳	
令		百八拾五円給與	
令		明治廿五年医術開業試験委員勤務ニ付手當金廿五拾五	
令		令上ニ付金九拾四円給與	
令		明治廿七年四月廿三日	
令		勅令四十四号医術開業試験委員任期被定(四年)	
令		明治廿七年医術開業試験委員勤務ニ付手當金百拾四	
令		給與	
令		廿八年	
令		令上ニ付金百四拾四円給與	

履歴川紙	廿九年	令上ニ付金七拾円給與	令
	三十年	令上ニ付金百參拾円給與	令
	三十一年	四月廿二日 医術開業試験委員任期満了	
	令	四月廿三日 医術開業試験委員ヲ令セラル	内務省
	十二月廿四日	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金廿百參拾五円給與	内務省
	三十二年	十二月廿一日 令上ニ付金廿百參拾六円給與	令
	三十三年	十二月廿四日 令上ニ付金參百拾七円給與	令
	三十四年	十二月廿五日 令上ニ付金百拾九円給與	令
	卅五年	四月廿二日 医術開業試験委員任期満了	
	令	七月廿三日 医術開業試験委員被仰付	内務省
内務省			

位勲爵		氏名	
博士		魚住完治	
府縣族籍		福井縣士族	
生年	嘉永六年八月廿七日	舊名	福井縣足羽郡福井市松ヶ坂上所拾五番地
原籍	産地：同之	現住所	東京市麹町區下六番町廿六番番地
年号	日	仕免賞罰	事故
明治十二年十月十八日	医科大学卒業學位授與		
十月十五日	青森縣出向申付後事		衛生局
〃	弘前病院長申付月給百廿拾円支給候事		青森縣
十三年十二月十四日	縣立医学校御用職兼勤申付後事		〃
十二月三日	金拾円明治十三年弘前市出火、際類焼者、頭書、通等附差段奇特ニ付為其賞水盆危個下賜後事		〃
十四年一月廿一日	是弘前病院新築費トシテ金五拾兩附差段奇特ニ付為其賞水盆危個下賜後事		〃
履歴用紙		内務省	
十四年七月六日	医術開業試験委員申付後事		青森縣
十月十五日	月給百四拾円給與候事		〃
十五年一月十一日	任青森專門医学校校長兼一等教諭		〃
十月十一日	医術開業試験委員申付後事		〃
十六年一月十五日	御用有之出京申付候事		〃
七月十八日	医術開業試験委員申付後事		〃
十月廿九日	弘前病院事務勉勵ニ付別段手當トシテ毎月金拾兩支給後事		〃
〃	月給百五拾円支給後事		〃
十月十七日	依願免本官並兼官		〃
十七年三月七日	警視廳醫務嘱託後事		〃
〃	但手當トシテ毎月金五拾兩給與後事		警視廳
十八年二月十四日	医務所勤務申付後事		〃
〃	警視廳御用職申付取扱準判任後事		〃
二月十七日	東京始審裁判所結了奉レ後事		司法省

令	御用職事務申付後事	令
四月十八日	但判任官取扱一ヶ年手當金五拾圓給與	警視廳
四月廿四日	依願警視廳御用職差免後事	司法省
五月九日	依願御用職差免後事	熊本縣
五月十九日	任熊本果熊本正學校一等教諭 但月俸金百四拾圓	熊本縣
五月廿七日	兼御用職申付後事	令
十月廿七日	但準判任衛生課勤務	令
十月廿四日	金拾圓明治十八年九月虎列刺病流行付為豫防費頭書一通	令
十月	寄附差殿奇特付為其賞水孟危個下賜後事	内務省
十月廿四日	明治十八年才二回長崎匠術同業試驗委員申付後事	令
十月	令上勤務付為慰勞目録通給與後事 (目録金拾六圓)	令
十九年十月	明治十九年才二回熊本匠術同業試驗委員申付後事	令
十月十六日	令上勤務付為手當目録通給與 (目録金拾五圓)	令
二十年四月八日	任熊本医学校教諭	熊本縣
令	給月俸百四拾圓	令
十月十日	明治二十年才二回長崎匠術同業試驗委員申付	内務省
十月十五日	明治十九年六月熊本果熊本建業賞トレ金參拾圓寄附差殿	令
十二月廿三日	奇特付為其賞水孟危個下賜後事	熊本縣
十二月廿三日	明治二十年才二回長崎匠術同業試驗委員勤務付為手當目録通給與 (目録金拾五圓)	内務省
廿一年三月	廢校	令
四月一日	果熊本病院外科匠長ヲ命ス	熊本縣
廿二年四月	但月俸百四拾圓	熊本縣
廿二年四月	令般私立熊本病院設立付右病院外科婦人科匠長嘱託致後事 但月俸百四拾圓	令
十月九日	地方衛生會委員ヲ命ス	令
廿三年二月二十日	本月舉行元藥舖同業試驗委員ヲ嘱託ス	令

廿五年 五月十日	明治廿二年七月瀬戸坂崩壊、際被害者救助ノ為、金参円寄附 附、段奇特ニ後事	熊本果
十二月二日	明治廿一年十二月一日一新尋常小學校新築費トシテ寄附 段奇特ニ後事	金
廿六年 二月二日	當校衛生ノ理、授業並寄病寮、医員ヲ囑托シ報酬トシテ一ヶ年 金六百元贈與	第一高等中學校
四月四日	医術開業試験委員ノ命ス	内閣
九月七日	自今報酬トシテ一ヶ年金五百円贈與	第一等中學校
十二月廿五日	廿六年東京医術開業試験委員勤務ニ付、手当金五百円給與 與	内務省
廿七年 四月廿三日	勅令四十四号医術開業試験委員任期被定（一期四年）	内務省
十二月廿四日	廿七年東京医術開業試験委員勤務ニ付、手当金五百拾五 円給與	金
廿八年 十二月二十四日	同上ニ付金五百拾五円給與	金
廿九年 十二月廿三日	同上ニ付金八拾五円給與	金
三十年 十二月二十日	同上ニ付金百拾五円給與	金
三十一年 四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	金
三月廿三日	医術開業試験委員被仰付	内閣
三十二年 四月四日	自今報酬トシテ一ヶ年金五百五拾五円贈與	第一等中學校
十二月廿一日	医術開業試験委員勤務ニ付、手当金五百拾五円給與	内務省
廿三年 十二月廿四日	同上ニ付金参百七拾四円給與	金
廿四年 十二月廿五日	同上ニ付金参百八拾九円給與	金
廿五年 四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	金
十二月廿三日	医術開業試験委員被仰付	内閣

位勲爵		氏名		益田廣岱	
博士		舊氏名			
府縣族籍		舊籍		原籍：同じ	
生年月日		慶應元年三月六日			
原籍		埼玉縣大里郡明戸本字石塚			
現住所		横濱市境町一丁目拾四番地			
年号月日		任 免 賞 罰 事 故		官 衙	
明治廿三年 六月廿五日		北米合衆國「マサチューセツツ」「ケンブリッヂ」「ハーヴァード」大			
		學部省 卒業			
		十月十七日		永國政府ノ開業試験ヲ經テ齒科医術開業免狀下付	
廿六年 六月廿四日		齒科医術開業免狀下付		内務省	
		十月二日		医術開業試験委員被仰付	
廿七年 四月廿三日		勅令四四号医術開業試験委員任期被定（一期四年）			
三十年 四月廿二日		医術開業試験委員任期満了			
今		四月廿三日		医術開業試験委員被仰付	
履 歴 用 紙		内 務 省		内 閣	
廿三年 十月廿四日		医術開業試験委員勤務ニ付為手當金百八拾九圓給與		内務省	
廿四年		第一回医術開業試験奉行ニ付横濱ヨリ東京ニ出張シ今ノ		内 閣	
		（口達）			
		十二月廿五日		医術開業試験委員勤務ニ付為手當金百八拾九圓給與	
廿五年 四月		第一回医術開業試験奉行、為メ横濱ヨリ東京ニ出張		内 閣	
廿五年 四月廿二日		医術開業試験委員任期満了			
今		四月廿三日		医術開業試験委員被仰付	

位 職		氏 名	
博士		緒 方 正 清	
府縣族譜		大坂府士族	
生年		元治元年七月廿日	
原籍		香川縣綾歌郡端岡村	
現住所		大坂市東區今橋三丁目番外三番屋敷	
年 号		任 免 賞 罰 事 故	
明治七年六月		帝國醫科大學別課程理科試問及第	
二十年五月廿日		帝國醫科大學別課程卒業	
六月		私立緒方病院に就職ス	
九月		浴療新論著述出版ス	
廿二年三月廿三年		獨逸國「イェナ」大學に於て産科婦人科を研究	
廿三年三月廿四年		獨逸國「フライブルグ」大學に入り産科婦人科を研究並に婦人生殖器解剖学病理解剖学外科科学ヲ研究ス	
廿四年五月八日		日本産科史ヲ著シ「ドクトル」ノ學位ヲ受ケ	
履 歴		内 務 省	
六月		獨逸國「ストラスブル」大學に入り産科婦人科学研究	
七月		獨逸國柏林大學に轉シ微菌学實地演習ス	
八月		全國維納府大學に入り産科婦人科学研究	
自九月至十二月		全國伯林大學に轉シ産科婦人科学研究	
廿五年四月		私立緒方病院産科婦人科長勤務	
六月		助産婦教育所ヲ設ケ助産婦生徒ヲ教育ス	
廿六年十月二日		産科婦人科試験委員ヲ命ゼラル	
廿七年一月十五日		大坂府地方衛生會委員ヲ命ゼラル	
二月十九日		産科婦人科試験委員ヲ囑託セラル	
廿七年四月廿三日		勅令四十四号「産科婦人科試験委員任期被定（一期四年）」	
五月		婦人科診断本全部二冊訳成り出版ス	
六月		私立大坂慈惠病院医学校講師勤務	
十二月廿四日		産科婦人科試験委員勤務ニ付為手當金六拾五圓給與セラル	
廿八年四月九日		産科婦人科試験委員ヲ囑託セラル	
		内務省	
		大坂府	

廿八年九月	産科圖解全部二巻纂譯出版ス	
三月廿四日	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金六拾五円給与セラル	内務省
廿九年十月廿日	今上ニ付金七拾四円給與セラル	々
十月八日	産婆術開業試験委員ヲ囑託セラル	大坂府
三十年十月	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金七拾四円給與セラル	内務省
三十年四月八日	産婆術開業試験委員ヲ囑託セラル	大坂府
廿一年四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	
々	四月廿三日 医術開業試験委員被仰付	内閣
十月廿二日	私立大坂慈恵病院医学校々長ニ就職ス	
十月八日	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金五拾五円給与	内務省
廿二年五月十九日	産婆術開業試験委員囑託セラル	大坂府
六月	明星学校教師ニ就キ佛蘭西語ヲ修テス	
十月廿一日	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金五拾八円給与	内務省
廿三年六月十三日	産婆術開業試験委員囑託セラル	大坂府
廿三年	地方衛生會臨時委員囑託セラル	々
九月十七日	今上	々
十月三日	産婆術開業試験委員囑託セラル	々
十二月廿四日	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金五拾四円給与	内務省
三十四年五月廿九日	産婆術開業試験委員囑託セラル	大坂府
九月十七日	今上委員ヲ令ス	々
十二月廿五日	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金五拾八円給与	内務省
廿五年四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	
々	六月廿三日 医術開業試験委員被仰付	内閣

位勲爵		氏名		渡邊晋三	
博士		府縣族籍		岡山縣士族	
生年月日		私元元年七月七日		産地 原籍 同	
原籍		岡山縣美作國真庭郡勝山町		現住所	
年号月日		任免賞罰事故		官衛	
明治三十三年八月二十日		東京府に於て舉行し、医術開業試験に及第		内務省	
二十一年十月十日		第二回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
二十一年四月廿四日		第一回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
廿六年十月二日		第二回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
九月廿五日		第二回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
十月廿五日		第二回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
廿七年四月廿三日		第二回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
履歴用紙		内務省		内務省	
廿八年		第一回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
十月廿四日		第二回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
廿九年		第一回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
十月廿四日		第二回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
三十一年		第一回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
十月廿三日		第二回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	
三十一年四月廿二日		第三回京都府医術開業試験委員囑託		内務省	

令	四月廿三日	醫術開業試験委員被仰付	内閣
〃		第一回医術開業試験京都ニシテ勤務	
〃		第二回令上ノ為京都ヨリ大坂ニ出張	
三十二年	十二月二十日	医術開業試験委員勤務ニ付為手当金六拾四給與	内務省
〃		第一回医術開業試験施行ニ付京都ヨリ大坂ニ出張	
〃		才二回令上ノ為京都ヨリ大坂ニ出張	
三十三年	十二月廿一日	医術開業試験委員勤務ニ付為手当金百拾九圓給與	令
〃		第一回医術開業試験施行ニ付京都ヨリ大坂ニ出張	
〃		第二回令上ノ為京都ヨリ大坂ニ出張	
三十四年	十二月廿四日	医術開業試験委員勤務ニ付為手当金百拾四圓給與	令
〃		才二回医術開業試験施行ニ付京都ヨリ大坂ニ出張	
〃		才二回令上ノ為京都ヨリ大坂ニ出張	
三十五年	十一月廿五日	医術開業試験委員勤務ニ付為手当金百七拾三圓給與	
〃		才二回令上ノ為京都ヨリ大坂ニ出張	
三十五年	四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	
〃		後任	
三十五年	四月廿三日	医術開業試験委員被仰付	内務省

めくれば

位勲爵
博士
氏名 伊澤信平

府縣族籍 東京府平民

生年月日 萬延元年二月廿四日

原籍 東京市麻布區麻布鳥居坂町四番地

現住所 同上

年号 明治 任 免 賞 罰 事 故 官 衙

明治四年 六月 北未合衆國「マサセツツ」市「ハーヴァード」

大學齒科醫學部卒業「ドクトル」ノ學位ヲ受ケ

明治五年 三月十一日 齒科醫術開業免狀下付セラル 内務省

明治六年 十月二日 醫術開業試験委員被仰付 内閣

明治七年 四月廿三日 勅令第百四號ニ以テ醫術開業試験委員任期被定

明治九年 四月六日 勅令第百十八號ニ以テ醫術開業試験委員官制被定

明治十年 十月廿日 醫術開業試験委員勤務ニ付為手當金百拾圓給與 内務省

履 歴 用 紙 内 務 省

明治十一年 四月廿二日 醫術開業試験委員任期満了

明治十二年 四月廿三日 醫術開業試験委員被仰付 内閣

明治十三年 十月廿日 醫術開業試験委員勤務ニ付為手當金九拾五圓給與

明治十四年 十二月廿二日 同上ニ付金百七拾六圓給與 内務省

明治十五年 十二月廿四日 同上ニ付金貳百貳拾四圓給與

明治十六年 十二月廿五日 同上ニ付金百七拾七圓給與

明治十七年 四月廿二日 醫術開業試験委員任期満了

明治十八年 四月廿三日 醫術開業試験委員被仰付 内閣

明治十九年 六月十九日 侍醫局勤務被仰付 宮内省

但奏任待遇

位勲爵	博士	大政府平民	氏名	緒方収二郎
府縣籍	大阪府平民	舊籍	生年	安政四年二月廿五日
生年	安政四年二月廿五日	生地	振津大改退書	原籍
現住所	大阪府大阪市東区北濱三丁目百番屋敷	官衙	年号	明治十五年六月十日
任免賞罰事故	東京大学医学科卒業證書被授與	官衙	明治十五年六月十日	東京大学医学科卒業證書被授與
明治十五年六月十日	医学士位被授與	官衙	明治十五年六月十日	医学士位被授與
明治十五年六月十日	医学部第一医院眼科當直医申付後事	官衙	明治十五年六月十日	医学部第一医院眼科當直医申付後事
明治十五年六月十日	東京大学雇中付月俸金拾五円給與後事	官衙	明治十五年六月十日	東京大学雇中付月俸金拾五円給與後事
明治十五年六月十日	東京大学御用職中付取扱准判任後事	官衙	明治十五年六月十日	東京大学御用職中付取扱准判任後事
明治十五年六月十日	医学部第一医院當直医申付後事	官衙	明治十五年六月十日	医学部第一医院當直医申付後事
明治十五年六月十日	自今月俸金四拾四円給與後事	官衙	明治十五年六月十日	自今月俸金四拾四円給與後事
明治十五年六月十日	日本橋区内公立小学校学童ノ視力檢定委員申付後事	官衙	明治十五年六月十日	日本橋区内公立小学校学童ノ視力檢定委員申付後事
明治十五年六月十日	第一医院外科当直医勤務申付後事	官衙	明治十五年六月十日	第一医院外科当直医勤務申付後事
明治十五年六月十日	医科大学助手ノ令ノ月俸金四拾四円給與後事	官衙	明治十五年六月十日	医科大学助手ノ令ノ月俸金四拾四円給與後事
明治十五年六月十日	才一医院勤務申付	官衙	明治十五年六月十日	才一医院勤務申付
明治十五年六月十日	依願解職	官衙	明治十五年六月十日	依願解職
明治十五年六月十日	大阪私立緒方病院副院長就職	官衙	明治十五年六月十日	大阪私立緒方病院副院長就職
明治十五年六月十日	獨逸二國ニ留學眼科学及外科學專修ス	官衙	明治十五年六月十日	獨逸二國ニ留學眼科学及外科學專修ス
明治十五年六月十日	医学開業試験委員ヲ命ズ	官衙	明治十五年六月十日	医学開業試験委員ヲ命ズ
明治十五年六月十日	廿六年京都医学開業試験委員勤務付為手当金五拾四給與	官衙	明治十五年六月十日	廿六年京都医学開業試験委員勤務付為手当金五拾四給與
明治十五年六月十日	医学開業試験委員任期被定（一期四年）勅令四四号	官衙	明治十五年六月十日	医学開業試験委員任期被定（一期四年）勅令四四号
明治十五年六月十日	廿七年京都医学開業試験委員勤務付為手当金五拾四給與	官衙	明治十五年六月十日	廿七年京都医学開業試験委員勤務付為手当金五拾四給與
明治十五年六月十日	同上ニ付金五拾四給與	官衙	明治十五年六月十日	同上ニ付金五拾四給與
明治十五年六月十日	大阪私立緒方病院院長就職	官衙	明治十五年六月十日	大阪私立緒方病院院長就職
明治十五年六月十日	地方衛生會委員ヲ命ズ	官衙	明治十五年六月十日	地方衛生會委員ヲ命ズ
明治十五年六月十日	廿九年京都医学開業試験委員勤務付為手当金六拾五円給與	官衙	明治十五年六月十日	廿九年京都医学開業試験委員勤務付為手当金六拾五円給與
明治十五年六月十日	十二月廿三日	官衙	明治十五年六月十日	十二月廿三日

三十年	十二月二十四	令上ニ付金五拾五圓給與	令
三十一年	四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	
令	四月廿三日	医術開業試験委員被仰付	内閣
三十二年	十二月廿四	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金百拾五圓給與	内務省
三十三年	十二月廿四	令上ニ付金百五拾五圓給與	令
三十四年	九月廿五日	大阪府地方衛生會委員ヲ命ス	大阪府
	十二月廿五日	医術開業試験委員勤務ニ付為手當金百六拾五圓給與	内務省
三十五年	四月廿二日	医術開業試験委員任期満了	
令	四月廿三日	医術開業試験委員被仰付	内閣
内務省			
履歴用紙			

今

十月廿日	医術開業試験委員勤務ニ付手当金拾五円給與	内務省
十二月廿三日	職務格別勉勵ニ付金拾円賞與ス	福岡縣
三十三年三月三十日	医術開業試験委員任期満了	
四月一日	医術開業試験委員被 仰付	内 務
九月廿六日	依願免職務	福岡縣
〃	在職中職務勉勵ニ付手当トシテ金八拾円支給ス	〃
十月五日	任府立大阪医学校教諭	大阪府
〃	年俸千八百円支給	〃
〃	府立大阪医学校病院産科婦人科医長兼務ヲ命ス	〃
三十三年四月七日	年俸千九百円支給	〃
五月十八日	大阪医学校附属産婆養成所講師兼務ヲ命ス	〃
六月十三日	明治三十三年第一回産婆試験委員ヲ囑託ス	〃
十二月三日	本年第二回産婆試験委員ヲ命ス	〃
十二月廿日	職務特別勤務ニ付金五拾円賞與ス	〃
十二月廿四日	医術開業試験委員勤務ニ付手当金百円給與	内務省
廿四年五月廿九日	明治三十四年第一回産婆試験委員ヲ命ス	大阪府
六月廿六日	自今年俸千四百円支給	〃
九月十七日	産婆試験委員ヲ命ス	〃
十二月廿五日	医術開業試験委員勤務ニ付手当金六拾七円給與	内務省

履 歴 用 紙

内 務 省

位勲爵		氏名		佐々倉永三郎	
博士		府縣族		東京府士族	
生年月日		慶應元年八月六日		舊藩 旧幕府 舊氏名	
原籍		東京市目黒橋區下横町拾四番地		産地 相模國三浦郡浦賀	
現住地		同上			
年号	月日	任	免賞罰事故	官	銜
明治廿年	七月十五日	第一高等中学校	卒業	第一高等中学校	
廿四年	十月廿二日	帝國医科大学	卒業	帝國医科大学	
廿五年	一月十四日	医科大学	助手嘱託	医科大学	
廿九年	一月廿九日	職務勉勵	其賞トシテ金拾圓給與	医科大学	
四月廿三日		医科大学	試験委員被仰付	医科大学	
四月三十日		依願免本官		医科大学	
履歴用紙		内務省			
廿三年	四月廿二日	医科大学	試験委員任期満了		
今	四月廿三日	医科大学	試験委員被仰付	内務省	
廿四年	十二月廿五日	医科大学	試験委員勤務ニ付為手当金拾五拾六圓給與	内務省	
廿四年	十二月廿五日	同上	付金拾百六拾九圓給與	内務省	

位勲
博士

氏名
寺田 織尾

府縣族籍
東京府士族

生年月日
天久三年二月十七日 産地
駿河国駿東郡沼津町

原籍
東京市日本橋區元柳町廿九番地

現住所
同上

年号
明治 仕免 賞罰 事故

明治四年五月十三日 醫科大学助手ヲ囑託ス 帝國大学

六月三十日 医科大学第二醫院勤務申付 医科大学

十月廿一日 医科大学助手ヲ囑託ヲ解ク 帝國大学

第二医院勤務申付 医科大学

廿五年三月廿三日 職務特別勉勵ニ付手當トシテ金拾五兩給與ス 帝國大学

十月二日 客年愛知岐阜兩縣下康災ノ際私費ヲ以テ岐阜縣下、出張ノ數多、負傷者放療ニ尽力シ功勞少ナカラズ因テ

之ヲ賞ス 文部省

廿六年九月十一日 任医科大学助手 帝國大学

ハ給俸給與 令

医院勤務申付 医科大学

本院附医官ノ勤務ヲ囑託ス 東京陸軍
總務病院

但シ手當一ヶ月金六拾兩 内閣

四月廿一日 医術開業試験委員ヲ命ズ 東京
陸軍後傷病院

十月廿日 依願医官勤務囑託ヲ解ク 帝國大学

十月六日 明治廿七年從軍記章條例ニ依リ明治廿八年十月八日

勅定ノ從軍記章ヲ授與セラル 帝國大学

十月三日 依願免本官 帝國大学

廿九年九月 歐洲ニ留学ス

廿一年八月 歸朝

廿九年十月十四日 明治廿七八年戰役中、勤勞ニ依リ特ニ金七拾五兩ヲ賜與ス 陸軍省

世二年 四月廿四 医術開業試験委員任期満了

四月廿九日 医術開業試験委員被仰付

世四年 十二月廿五日 医術開業試験委員勤務料金五百五十八円給與

内 閣

内 務 省

医 術 開 業 試 験 委 員 任 期 満 了

内 務 省

位勲爵		博士		氏名		土岐文二郎	
府縣族譜		石川縣士族		舊氏名			
生年月日	文久元年十月四日	産地	原籍、令し				
原籍	石川縣加賀國金澤市七寶町十一番地						
現住所	東京市日本橋區蛸蛸町一丁目三番地						
年号月日	任	免賞罰事故	官衙				
明治十年五月	帝國医科大学卒業	帝國大学					
令	縣立鳥取病院院長兼任	鳥取縣					
廿五年九月	佐賀縣柄崎病院院長に聘せらる						
廿七年九月	高等師範学校衛生講師に嘱託せらる	高等師範学校					
令	帝國大学農学部大学宿舎医員に任ぜられ嘱託せらる	内務省					
廿八年十月十三日	医術開業試験委員に任ぜらる	内務省					
三十年三月廿日	医術開業試験委員勤務に付為手當金七拾五圓給與	内務省					
三十年三月廿日	令上、付金八拾圓給與	令					
履歴用紙		内務省					
廿二年十月十二日	医術開業試験委員任期満了						
令	十月廿一日 医術開業試験委員勤務に付為手當金四拾九圓給與	内務省					
三十三年四月十六日	医術開業試験委員被仰付	内務省					
令	十二月廿四日 医術開業試験委員勤務に付為手當金拾四圓給與	内務省					
三十四年十二月廿五日	令上、付金廿四圓五圓給與	令					

位勲爵

博士

氏名

秋元隆次郎

府縣族籍 東京府平民

舊籍

生年 慶應三年四月十七日

産地

原籍 東京市本郷区駒込東月町百参拾四番地
現住所 鹿児島県鹿児島市千之野千四番戸

年号 月 日

任 免 賞 罰 事 故

官 衙

明治三十五年 十月廿八日

帝立大学医科大学医学科全科卒業

帝立大学

十月二日

筑前県下志布志町下志布志、際私習ヲ以テ志布志下ノ
出張ニ赴キ、負傷ニ放療ニ尽力シ功勞少カラズ因テ之ヲ賞ス

文部省

明治三十六年 一月廿二日

医術ニ長ズル者ニ被テ授興

文部省

七月十九日

向フ二箇年以内医科大学助手ヲ囑托ス

帝立大学

九月十四日

医科大学助手ヲ囑托シ解リ

帝立大学

十月廿二日

医科大学附属医院産科婦人科学教室勤務シテ今ス

医科大学

今

任医科大学助手

帝立大学

履 歴 用 紙

内 務 省

明治三十六年 十月廿二日

ハ級俸給興

帝立大学

明治三十八年 三月七日

依願免本官

令

五月十四日

熊本県立熊本病院産科婦人科医長シテ今ス

熊本県

今

給月俸百参拾圓

令

六月四日

換役官シテ今ス

令

九月廿四日

明治三十八年第二回産科試験委員シテ今ス

令

十一月廿四日

免換役官

令

明治三十九年 四月廿五日

本年第二回産科試験委員シテ今ス

令

九月十六日

換役官シテ今ス

令

九月廿六日

本年第二回産科試験委員シテ今ス

令

十二月廿七日

免換役官

令

明治三十九年 三月六日

熊本県獣医院長兼獣医シテ今ス

令

四月一日

本年第二回産科試験委員シテ今ス

令

今

本年第二回産科試験委員シテ今ス

令

九月廿二日	本年第二回産務試験委員ヲ命ス	令
九月三十日	医術試験委員被仰付	由 医
十二月廿日	医術試験委員被仰付并金拾圓給与	由 医
三十一年三月廿四日	年俸十七百圓下賜	熊 本 県
四月六日	御用有之福岡県へ出張シ命ス	令
四月廿一日	本年第一回産務試験委員ヲ命ス	令
七月一日	明治三十九年京下海嘯被害者救恤トシテ頭書ニ 通惠與テ水奇特ニ事	官 民 衆
七月廿二日	換渡官ヲ命ス	熊 本 県
十月十五日	本年第二回産務試験委員ヲ命ス	令
十二月廿四日	医術試験委員被仰付并金拾圓給与	由 医 務 省
三十一年四月五日	第一回産務試験委員ヲ命ス	熊 本 県
十二月廿二日	医術試験委員被仰付并金拾圓給与	由 医 務 省
十二月廿二日	職務試験委員被仰付并金拾圓給与	熊 本 県
三十一年二月八日	熊本県取徴院長兼務ヲ免ス	熊 本 県
三月廿一日	年俸六千圓下賜	令
四月六日	右職中事務試験委員為慰勞金金拾圓給与	令
十二月廿八日	明治三十一年七月京下洪水ノ際被害者救助員トシテ金拾圓	令
	春拾圓寄附金被仰付并金拾圓給与	令
九月廿二日	職務試験委員金拾圓賞與ス	令
九月廿四日	医術試験委員被仰付并金拾圓給与	由 医 務 省
三十一年四月	第一回医術試験委員被仰付并金拾圓給与	令
六月三十日	依願果立熊本病院産科婦人科部長ヲ免ス	熊 本 県
令	職務試験委員金五百圓賞與ス	令
七月一日	市立鹿児島病院産科婦人科部長ヲ命ス并手當	鹿児島市
	金拾圓四角ヲ給與ス	鹿児島市
九月七日	娼妓健康診断醫長ヲ命ス	鹿児島市
	但手當金一ヶ月金拾圓ヲ給与	鹿児島市

	九月廿九日	医術開業試験委員任期満了	
	九月三十日	医術開業試験委員被仰付	内閣
世四年	十月	才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付	内閣
	二月廿六日	医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付 才田医術開業試験委員被仰付	令
履歴用紙		内務省	

位勲爵	博士	氏名	橋田茂重
府縣族籍	千葉県平民	舊氏名	
生年月日	文久三年十二月五日	産地	
原籍	千葉県東葛飾郡野田町廿五拾八番地		
現住所	東京下谷區東黒門町廿拾五番地		
年号月日	任 免 賞 罰 事 故	官 衙	
明治二年十二月	大学医学部入学		
廿五年十二月	愛知岐阜両県下震災ノ際私費ヲ以テ愛知県下ニ出張敷多ノ負傷者救療ニ尽力シ今年十二月又都省ヨリ賞状下賜セラル	文部省	
二月	医科大学医学全科卒業		
十月十五日	医科大学内科学無給助手仰付ラル	医科大学	
廿六年二月三日	医術開業免許状下附セラル	内務省	
七月	医科大学医学全科卒業証状受領	医科大学	
十月廿二日	医科大学副手ヲ囑託セラル	令	
履 歴 用 紙	内 務 省		
廿七年三月十四日	医科大学内科学助手被申付	医科大学	
廿九年十月廿九日	ハ級俸給與才一医院勤務		
廿九年十月廿九日	医術開業試験委員被仰付	内 閣	
十月廿四日	依願医科大学助手ヲ免セラル	医科大学	
三十年三月	東京神田區錦町春二月九番地ニ於テ私ニ東京内科病院ヲ設立シ今日ニ至ル		
三十三年十月廿八日	医術開業試験委員任期満了		
三十三年十月廿九日	医術開業試験委員被仰付	内 閣	
十月廿四日	令上委復勤務ニ付為手当金三百六拾七圓給與	内務省	
	留而刑罪ニ觸レズ訴訟ヲ断セズ而シテ賞與ヲ得シ		
	事 數 回		
廿四年十月廿五日	医術開業試験委員勤務ニ付為手当金四百廿四圓給與	内務省	

位勲爵		氏名	
博士		橋田茂重	
府縣出身		千葉縣平民	
生年		文久三年十一月五日	
原籍		千葉縣東葛飾郡野田町貳百五拾八番地	
現住		東京市下谷區東黒門町貳拾五番地	
年号月日		任 免 官 衙 事 故	
明治十年十月		大學醫學部入學	
廿五年七月		愛知岐阜兩縣下震災ノ際私費ヲ以テ愛知縣下へ出張數多ノ負傷者救療ニ盡力シ今年十二月文部省ヨリ賞状下賜セラル	
令 十月		醫科大學醫學全科卒業	
令 十月十五日		醫科大學內科學無給助手仰付ラル	
廿六年二月三日		醫術開業免状下附セラル	
令 七月		醫科大學全科卒業証状受領	
履歷用紙		内務省	
令 十月廿二日		醫科大學副手ヲ囑託セラル	
廿七年三月十四日		醫科大學內科學助手被申付八級俸給與第一醫院勤務	
令 十月廿四日		依願醫科大學助手ヲ免セラル	
廿九年三月		東京神田區錦町參丁月拾九番地ニ於テ私立東京內科病院ヲ設立シ今日ニ至ル	
廿三年十月廿八日		醫術開業試驗委員任滿了	
令 十月廿九日		醫術開業試驗委員被仰付	
令 十月廿四日		醫術開業試驗委員勤務ニ付手當金三百六拾七圓給與	
廿四年十二月廿五日		令上ニ付金百貳拾四圓給與	

裏面白紙

明治三十六年十一月十六日

別紙 大西克知外五名 敘位
上奏書進達ス

明治三十六年十一月十六日

内務大臣男爵内海忠勝



内閣總理大臣伯爵桂 太郎殿

内務省

裏面白紙

明治三十一年一月十五日

別紙 森島次郎外十三名 叙位ノ件

上奏書進達ス

明治三十一年一月十五日



内務大臣男爵内海忠勝

内閣總理大臣伯爵桂 太郎殿